

保育を担う人材育成について ～ 保育養成校学生との意見交換会から考える～

埼玉県保育士会研究部会

保育養成校学生との意見交換会実施日

- ★平成29年9月20日(水)埼玉純真短期大学
学生14名 研究部会8名
埼玉県羽生市下岩瀬430
- ★平成29年11月6日(月)東京家政大学子ども学部支援学科
学生33名 研究部会6名
埼玉県狭山市稲荷山2-15-1



埼玉県保育士会研究部会では、平成28年度に保育現場で働く方々の職場環境に関する調査を行い、その結果を中間報告させていただきました。

平成29年度は、皆さまからいただいた回答をもとに、課題となる「働きやすい環境づくりと人材育成」についての研修を9月に行い、若い職員の気持ちに添って共に働く大切さを再認識しました。

今年度は養成校の学生が、実習しても就職につながらない現状の中、「保育を担う人材を増やすための方策」として、学生が就職を決めるにあたっての不安やポイントを知る必要性を感じ、養成校の御協力をいただき、学生との意見交換会を実施いたしました。

養成校との意見交換会開催におきまして、埼玉純真短期大学並びに東京家政大学の関係各位、学生の方々には、内容の濃い意見交換会を開催することができましたことを感謝いたします。

実習を経験して（いい思い出）



自分に合った
保育を見つける
ことができた

子ども達の
成長を近くで
感じることが
できた

「よく頑張ったね」
「良い視点だね」と
褒められた

先生方の実習体験を
聞き参考になった

先輩保育士のおもい

- やりがいがあるって
楽しい仕事を伝えたい
- 新しい空気をいれて
くれる感じがとてもいい

先生と呼ばれ
嬉しかった

明日は何を作って
くれるの？と聞かれ
嬉しかった

人見知りの子と
仲良くなれた

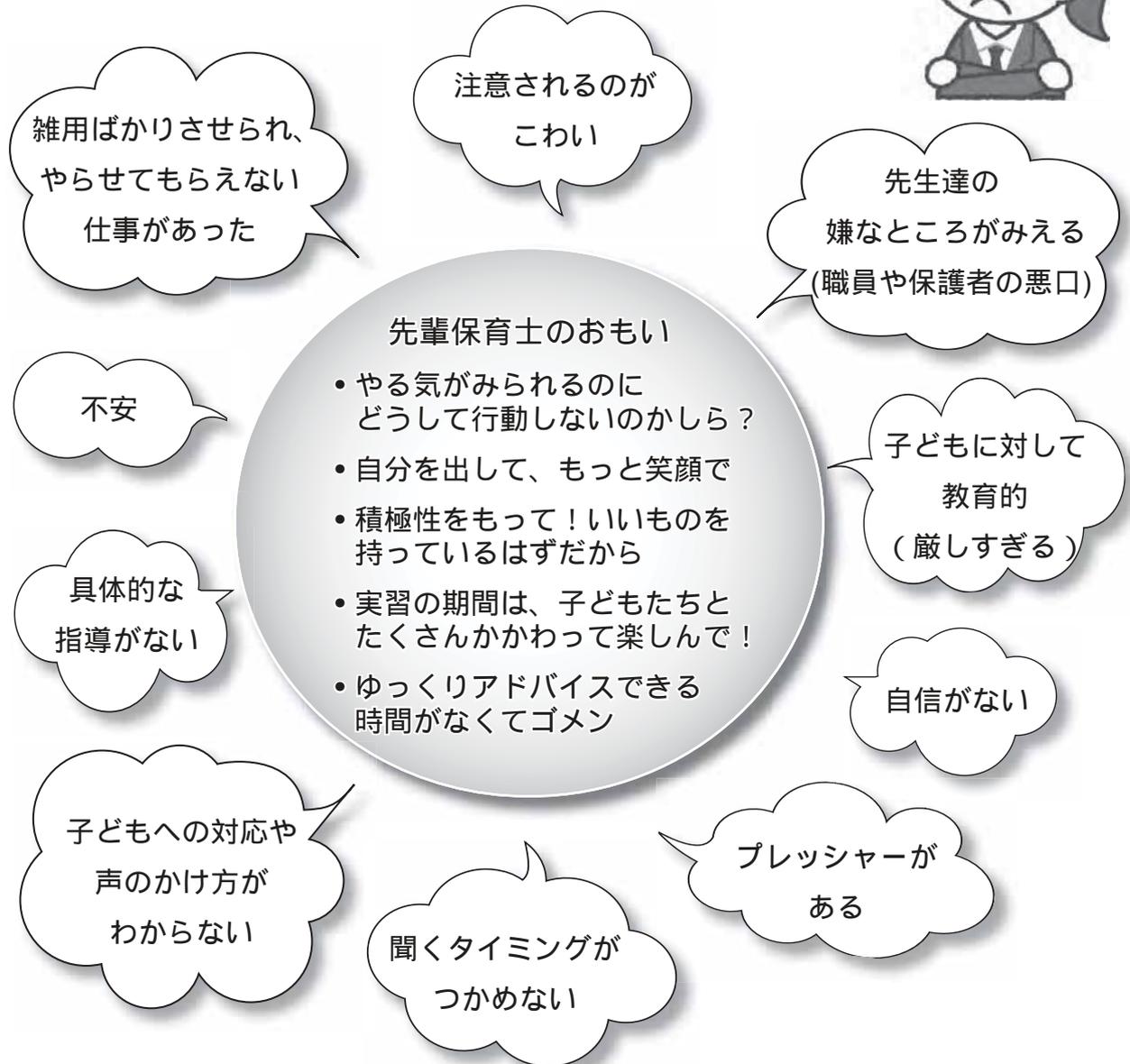
実習の最後に
子ども達が手紙や絵を
くれたことが
嬉しかった

コーヒーブレイク

「あれ？見たことあるお顔だ！」

自己紹介から始まった意見交換会。終了後、学生さんが「先生、覚えていますか？」と挨拶に来てくれました。なんと卒園児だったんです。思いもかけない再会と、立派に成長し保育士を目指していることに嬉しさがこみあげました。

実習を経験して（苦い思い出）



実習生受け入れのおもい

子どもと触れ合う機会の減少、世代ごとのジェネレーションギャップがあることをふまえて、実習生との対話を重視し同僚性をもって受け入れていくことが大切ですね。
新しい空気を吹きこんでくれる、若い世代の保育者を育てていきたい。人を育てることは保育者自身が育つことにつながります。

実習の記録について



実習の記録から考えられること

書く方もチェックする方も、負担になるほどの実習記録になっている。記録のあり方を改善する必要があるのではないか。一日の流れについては、最初に記入すればよい。子どもとの関わりを通しての「気づき」を大切にしてほしい。この気づきは、将来的に要録や児童票などの記録につながっていく。

就職を考えた時に思うこと



☕ コーヒーブレイク ☕

意見交換会で、自園に就職を決めた学生に出会いました。お互い気恥しさもありましたが、就職を決めた理由や将来についての話ができただことは、とても嬉しかったです。

保育養成校を見学して

保育養成校学生との意見交換会の前に、養成校のご厚意で、学内の施設や授業見学の機会をいただきました。教科の実習室・ランチルームの設備や、映像を駆使した授業、また教科・実習・進路と先生方と学生とのつながりが密で、驚きの連続でした。

【設備について】

- ・ピアノが練習室だけではなく、施設のあらゆる所にあり、いつでも触れられる環境が素晴らしいと思いました
- ・おしゃれなカフェのような設備・ランチルームは素敵なお部屋で、学内でマナー教室までできると聞いて驚きました。
- ・学生同士、授業以外で学べるスペースがある事（紙芝居、エプロンシアターの練習、ピアノ等）をうらやましく思いました。
- ・沐浴は一人1体の人形で実習できるようになっていました。私たちの頃はみんなで1体でした。

【授業の様子】

- ・OHPを使って、視覚化（見える化）された授業。教科書がモニターに映されていました。
- ・聞くだけの授業ではなく、学生が考え発言する工夫がされていてとても良いと思いました。

【学生と先生とのつながり】

- ・先生方と学生さんの距離感も近く、1人ひとりが大切にされている印象を受けました。
- ・授業だけでなく、学生生活が謳歌できるような施設があり、学生の悩みを受け止めてくれる先生方のフォローが細やかでした。

【その他】

- ・有効求人率100%以上ということで、学生が選びきれないとの情報にも驚きました。
- ・着慣れるようにと、スーツを着る日が設けられている事に驚きました。
- ・出身大学を見学させていただいて学生時代に戻ったような時間を過ごすことができ嬉しかったです。
- ・学生の制作した作品が学内に展示されていました。子どもたちの喜びそうなものがたくさんありました。



埼玉純真短期大学



東京家政大学（狭山キャンパス）

保育現場における、より良い職場づくりと人材育成の研修を受けて

「あなたが大切」

保育現場における、より良い職場づくりと人材育成を考える研修より

日時： 平成29年9月8日（金）埼玉教育会館

講師： 女性ライフサイクル研究所フェリアン 津村 薫先生

環境の変化とコミュニケーション

やり取りのいらぬスーパーで買い物をし、コミュニケーションがなくても生きていける時代に育った若者が、上手くコミュニケーションできないのは当たり前のことです。「これくらい常識よ」では、そこでつまづいてしまいます。少し上の人や経験の長い職員は、若手にきつい傾向もあります。人間関係の質を良くしていくことが保育の質の向上につながるため、温かく丁寧な人材育成が重要となってきます。

もめない組織はない

コミュニケーションで最も重要なことは「あなたが大切」という思いが伝わること。その人のいいところや、がんばりを褒める、プラスのメッセージを伝える習慣をつけましょう。そのために時間を割きましょう。色々な人がいて、色々な考え方があって良いが、誰が正しいか悪いかを決めることは良い方法ではなく、問題解決になりません。

クレームはわかって欲しいから出てくるもの、その時をチャンスと捉えて上手にもめる技術を身につけることも大切で、相談者が話せて良かったという結果につながるものになると良いし、どんないい組織でももめない組織はありません。

人が育つには年月がかかる

初めは人間関係や組織に慣れることに気を遣うもので、人が育つには年月がかかります。具体的に誇りを持って仕事できるように指導し、この園に来て良かったと思える人を増やしていくことが大切です。困った職員は、困っている職員なので、丁寧な対応で育てていく。3年以内の新任の時には、わからないことは、早めに相談しきちんと教えてもらって次の世代につないでいく。ちゃんと助けてもらうことが大切です。

中堅職員の役割

仕事を覚えた中堅職員の課題は、良い先輩・温かい先輩になること。自分のことも人のこともバランス良く、人のできなさを許すことも時には大切です。

ベテランになると我流の保育になりやすいので、専門性を学ぶことで仕切り直しをすることが大事になります。またリーダーの力は、若手を助けるために使います。今いる人を大切に考えることです。信頼できるかどうかではなく、信頼することを大事にしていきたいものです。

今、私たちのできること

自分自身は感情豊かな人であること。感じていけない感情はありません。心豊かに育まれる子の周りには、心豊かな大人がいます。

より良い職場づくりのために、仲間と助け合って、できることから着手しましょう。劇的に変わることはないけれど「あなたが大切」という思いを伝えられる存在であることは、必ず人材の定着や、保育の質の向上にもつながります。

【 考 察 】

実習園での経験が、就職を決める大きなターニングポイントとなるようだ。実習での失敗より、そこで経験し見た職員や園の様子・受けた指導により、保育士としての仕事に疑問をもってしまう事が多々あるようだ。また、先生方に気を遣いすぎて、思うように結果が出せなかった等、受け入れ側に配慮が求められる様子がうかがえた。現実の厳しさを教えると同時に、受け入れ側も視点を変えていく必要があるのではないだろうか。

しかしながら、昔と比べると就職してから教えなくてはならないことが多くなっている。基本的な挨拶・掃除の仕方・接遇面など、できてあたりまえなことができないことが多く、現場として頭を抱える状況は否めない。職場環境を良くしたいのはやまやまだが、深刻な人手不足からくる負の連鎖をなかなか食い止めることができない。業務軽減に努めることもさることながら、保育士として本来あるべき姿を見失わないよう、養成校ともっと密に連携を取り、昔にこだわらない柔軟さを持ち、双方が寄り添っていく必要性を感じた。

情報が溢れている今、インターネットの口コミサイトの偏った情報が重視されているところにも注目すべきところである。子ども達の成長の喜びを自分の目で見て感じ、気づきや発見などを喜び合い・共感しながら、若い世代に保育の楽しさを伝えていきたい。



今年度の研究部会では、「保育士不足の原因はどこにあるのか？」ということを探るために、埼玉純真短期大学および東京家政大学の学生との意見交換を実施し、実習での良い思い出・苦い思い出、就職先を選んだ決め手など、きたんのない意見を聞くことができました。どの学生にも言えることは、実習先での体験や人間関係が、就職に大きな影響を及ぼしているということです。

保育現場では日々の保育の中、実習生を迎える上での困難さや問題点も多く見られます。しかし、職場環境を良い方向に変えていくために、私たちも同僚性をもって、実習生・若手職員の育成に力を注ぐ必要性を強く感じました。同僚と話し合い、自らの保育を振り返りながら次の課題を見いだす。語る・聞く、教える・教わる、支える・支えられる人間関係の構築が保育者の専門性を高め、満足度を高めることでしょう。そして保育の質の向上につながるはずです。



研究部会開催

- 第1回 平成29年6月12日(月)
- 第2回 平成29年7月12日(水)
- 第3回 平成29年8月22日(火)
- 第4回 平成29年9月8日(金) ※研修会開催
- 第5回 平成29年11月20日(月)
- 第6回 平成29年12月15日(金)
- 第7回 平成30年1月18日(木)
- 第8回 平成30年2月2日(金)